

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援ほっと		2026年 1月 6日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	1	活動によって狭く感じる。 遊ぶ内容で場所を分け、過ごしている。	別室を借りる予定であったが、入居があり達成できなかった。別室が空き次第、事務所の移動を達成させたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		子ども一人一人に関わり、丁寧に見守ることができている。 日や子どもの様子によって時々足りないと感じる。	職員の退職に伴いご迷惑をおかけした。 採用・育成に力を入れ、退職が少ない職場環境づくりに努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		・情報の共有ができており、ホワイトボード等で見直しをもって活動ができる。 ・視覚的伝達は少ないように感じる。 ・おもちゃの位置を決めて片づけやすいようになっている。	ワンフロアで導線はしっかりとしている。 積極的な視覚支援は、将来的なことを考え、行っていない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		・玩具や絵本を定期的に交換している。 ・昼食後やおやつ後等、定期的に清掃している。	職員の方々がいつも清潔にして下り感謝しております。いつもありがとうございます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		3		対応できる場所が洗面所しかなく、対応が難しい。別室を早く借りられるようにしたい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		会議で話し合いPDCAサイクルを行っている。	改善策を提案する人が限られるため、議題を先に提案し、個々に考える時間を設定するのが良いかと思う。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		保護者等の意向を把握する機会がある。	保護者の意向・考えを取り入れる機会はあるが、限定的かつ自由参加のため、不参加の方については難しい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		面談や会議等で意見を伝える時間がある。	会議や面談などに取り入れるようにしている。できれば月に1回は1対1で話す時間を作りたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3			第三者を入れる余裕がない。 実地指導はあった。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		・会議の中で研修を行う機会が設けられている。 ・研修の案内がある。	法人研修が主である。外部研修も積極的に案内したいが、いいものがない。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		・1ヶ月の予定表の張り出しがありわかりやすくなった。 ・支援プログラムが作成され、全員が見られるようになっている。	保護者への通知は不十分に感じる。おたより等を作成できればと思っている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3		・保護者のニーズを聞き、個別支援計画が立てられている。	保護者の要望に対してステージを説明しながら作成するように心がけている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		・子ども一人一人について職員・パート間でも情報共有が行われている。 ・個別の様子をもう少し共有できる機会があれば質を向上できと思う。	個別療育で成長がわからない部分に関して、担当職員に質問を行い、個別支援計画書に反映している。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		・パートに対しても時間を設け、説明してもらえている。	担当者会議、作成後も全職員に周知できるようにしている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3			日々の行動観察は全職員共通で行っている。ただし、現状では共有する時間がなく、情報共有が不十分であると思っている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		支援に必要な項目が適切に設定され、児童発達支援計画が書かれている。	保護者の意向を踏まえながら必要な項目を個々に分けて設定している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	1	2		活動プログラムは担当ごとに行っている。 現状は変更する予定はない。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		プログラムが固定化されないように様々なプログラムが行われている。	曜日ごとに固定化されている。毎日利用する子にとっては変化があるが、利用日が固定の子は変化がない。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3		作成された児童発達支援計画を確認して支援を行っている。	集団生活の中で支援が難しい課題を個別療育で取り組んでいる。個別で達成できたことを集団生活でも力を発揮できたかと思っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	2	全体で打合せは難しいが、個々で確認できる環境が整っている。	職員の生活や勤務条件もあり、全員揃っての打合せは不可能である。そのため、打ち合わせをしなくても支援内容、役割が分かるように仕組化している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	0	3		月曜日・木曜日は送迎可能な職員が限られているため、難しい。火・水・金・土曜日に関しては今後取り組んでいく予定である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		・毎日記録を取っている。	日々行っている。検証・改善については職員同士思っていることがあると思うので引き出して行きたいと思う。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		保護者との面談の中で見直しを行い、新しいニーズを引き出したり成長につなげられたりするようにしている。	実地指導の中で個別支援計画について指導を受け、改善している。 より良い計画書が作れるように体制・組織作りを行いたい。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2			基本的には児発管が対応している。しかし内容や相談によってはその子をより理解している職員が対応している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3			北部支援課、保育園・幼稚園の先生方とは密に連携を取り支援を行っている。ご対応下さり、大変ありがたく思っています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3			幼保園への連携は行っているが、幼保園の数が多くなってしまい、対応が難しくなっている。現状は年1回の訪問となっている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3			該当児がいなかった。2025年度は就学に向けた話の機会が多くなっている。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	1			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				2025年は職員の退職が重なり、交流会への参加も難しい状況であった。2026年は積極的に参加したい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3			保育園の子どもたちと交流機会があった。受け入れてくださったこと、貴重な体験をさせて頂いたことに感謝いたします。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			送迎時に伝えるようにしているが、車内の子どもの状況により、落ち着いて話せないことがある。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	2		ペアトレは行っているが、希望制のため、行っていない方もいる。また、全家庭を対象に1対1で行うことは難しい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			支援プログラムの説明は簡潔であるため、次回以降の契約で取り組む予定である。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			モニタリングの際に子どもの成長と今後の課題を共通認識している。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3			保護者評価シートの通り、高い評価を頂いている。継続し、後継者にも受け継いでもらえるように指導していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3			こちらから発信することはない。全家庭(31名)毎月行う余裕はない。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3			年2回(6月と12月)に取り組んでいる。また兄弟参加として夏祭り(お盆前)も行っている。自由参加のため、参加しない家庭は交流の機会がない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			要望を受けた際はすぐに対応している。内容によってすぐに改善できないものについてはご協力を頂いている。ご協力いただき、大変ありがたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3			職員退職後から更新ができていない。今後は少しずつ取り組んでいきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3			留意している。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			情報伝達については視覚支援に頼らないようにしている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3			2025年の夏祭りは地域の方々にもご参加いただいた。参加人数は少なかったが、認知して頂くための活動を行っていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3			作成はしているが周知が不足しているため、今年度は周知も行ってきたい。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3			備蓄品がおそらく不足しているため、追加購入が必要。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	1	2		服薬児がいない。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3			アレルギー除去については徹底していた。現状は該当児なし。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3			安全計画について実地指導でご指導いただいた。改善案を提出予定である。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	1		家族との連携がうまくいっていない。緊急時は連絡を入れるが、繋がらないこともあるため、勤務先等の連絡先も聞く必要がある。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2	1		議題として上がることは少なく、個々に気を付けている。 共有する時間を設定する必要があると感じている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3			年に1回は必ず行うようにしている。子どもたちが安心して過ごすことができる環境づくりに努める。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	1		職員へは周知している。該当児がいないため、保護者への通達を行ったことがない。